

# シナイ通信

## 第11号

平成19年9月30日

NPO 法人 シナイモツゴ郷の会

TEL/FAX(0229-56-2150)

MAIL [shinaimotsugo284@ybb.ne.jp](mailto:shinaimotsugo284@ybb.ne.jp)

<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚

字小谷地 504-1 鹿島台公民館内



## 農水大臣賞に続き明日への環境賞をW受賞！

### 水辺の自然再生シンポジウムを成功させ

### シナイモツゴ郷の米認証制度確立へ

多くの環境保護団体が目指している朝日新聞「明日への環境賞」を4月に受賞しました(詳細p3)。今年1月の平成18年度田園自然再生活動コンクール最高賞「農林水産大臣賞」に続くW受賞となりました。私たちが目指す「誰でもできる自然再生」のモデル性が高く評価されたようです。この成果を10月27日に開催する水辺の自然再生シンポジウムへ反映し、今夏提案したシナイモツゴ郷の米認証制度のH20年確立を目指します。

#### 明日への環境賞を受賞

(シナイモツゴBCC通信86号4月28日配信から)

朝日新聞「明日への環境賞」を受賞、表彰式へ8名の理事が出席しました。4月24日、朝日新聞本社で表彰式が開催され、朝日新聞社長から表彰状が理事長へ授与されました。

今年1月に受賞した田園自然再生コンテストの農林水産大臣賞とのW受賞となり、予想以上の評価に驚いています。

みなさま、本当にありがとうございました。

これまで、粉骨砕身、尽力された会員とともに喜びを分かち合いたいと思います。また、ご支援・ご協力いただいたみな様に心から感謝申し上げます。

明日への環境賞の基準である先見性、モデル性、継続性の中で、特にモデル性が高く評価されたようです。市民のためのだれでもできる在来魚の復元やバス駆除の技術開発と体制づくりが注目されたようです。言うまでもなく、当会以外にも多くの団体が真摯に環境問題に取り組み、活発な活動を展開しています。是非、多くの方々がこれらのコンテストへ応募して自らの活動をアピールすることにより、環境保全・自然再生の大切さを世論へ訴えていただきたいと思います。活動の輪を拡大して、継続するためには成功事例の宣伝が不可欠です。

#### シナイモツゴ郷の米認証制度の立ち上げ

昨年からの検討してきたシナイモツゴ郷の米認証制度を7月に立ち上げ、9月に要領を公表しました。シナイモツゴ生息池の水で栽培した米をブランド化してシナイモツゴ保護に貢献する農家を支援します。発表後、大きな反響を呼んでいます。

シナイモツゴの生息は、生息しているため池の水質が長期にわたって良好に保たれていることを証明しています。これらのため池は農業者の生産活動によって維持され、シナイモツゴが生息できる良好な環境に保たれてきました。したがって、この水を利用して栽培した米は環境保全米として評価することができます。

本会は生息池の保全などシナイモツゴの保護活動を通じて環境保全に取り組む農業者を支援するため、シナイ

2007年9月19日 朝日新聞

### 安全な米にお墨付き

#### シナイモツゴ郷の米

絶滅が危惧される在来魚・シナイモツゴの保護活動を続ける大崎市のNPO「シナイモツゴ郷の会」は、環境保全を担う農家を支援するため、コメの認証制度をつくった。「シナイモツゴが生息する水で育った米なら安心、安全」というお墨付きを生かして、コメに付加価値をつけ、農家の収入アップにつなげるのが狙いだ。

同会によると、認証の条件は「シナイモツゴが生息するため池の水を使い、たぬきの管理を怠らなくて、コメの管理を怠らなくて」と

#### 大崎の農家支援へ認証

大崎の農家支援へ認証

シナイモツゴは、大崎市の自然環境を保護する上で重要な役割を果たしている。同会では、この魚の生息地であるため池の水を、安全な米の栽培に活用し、農家の収入を増やすことを目指している。

シナイモツゴは、大崎市の自然環境を保護する上で重要な役割を果たしている。同会では、この魚の生息地であるため池の水を、安全な米の栽培に活用し、農家の収入を増やすことを目指している。

シナイモツゴは、大崎市の自然環境を保護する上で重要な役割を果たしている。同会では、この魚の生息地であるため池の水を、安全な米の栽培に活用し、農家の収入を増やすことを目指している。

反響の大きなシナイモツゴ郷の米認証制度

モツゴ郷の米認証制度を立ち上げました。

次の2つの条件を満たして水稻を栽培した場合、当会がシナイモツゴ郷の米として販売することを認証します。

1) シナイモツゴが生息するため池の水を利用して水稻栽培をするとともに、ため池の管理（維持活動、生態系保全活動等）に参加している。

2) 環境保全型農業あるいは伝統農法の自然乾燥による水稻栽培を行っている。

ただし、環境保全型農業とは、減農薬、減化学肥料栽培の取り組みあるいは伝統農法である棒がけ自然乾燥です。当会の役割は認証機関として種々の調査や審査を行い、シナイモツゴ郷の米として認められた生産米を認証することで、販売に直接関わるものではありません。

### 里親小学校で進む人工繁殖

#### 育てた稚魚を放流してシナイモツゴ生息池を拡大



採卵用産卵ポットを準備中の会員（4月中旬公民館にて）

当会が開発した人工繁殖技術と地道に築き上げた里親制度により今年も順調にシナイモツゴの人工繁殖が進められています。今年度は鹿島台小学校、東松島市立小野小学校、仙台市鶴谷小、松陵小、美里町小牛田小の5校が卵からの飼育に取り組んでいます。飼育尾数に違いはありますが、それぞれの小学校で子供たちが一生懸命稚魚を育てています。

9月6日小野小学校、9月21日鹿島台小学校へインストラクターが訪問し、観察交流会を開催しました。観察交流会では飼育稚魚をトラップで取り上げて体長計測すると共に、飼育指導やQ&Aなどで子供たちと楽しく交流しました。両校では数100尾の稚魚がすくすくと育っています。

昨年、里親に育てていただいた稚魚を5月に栗原市築館のブラックバスを退治した2カ所のため池へ、9月に



ブラックバスを駆除したため池へ里親が育てた稚魚を放流

は2回の魚類調査で安全を確認した鹿島台のため池へ合

計300尾を放流しました。

### シンポジウム「水辺の自然再生」開催 10月大崎市古川

「水辺の自然再生をめざす市民活動—外来魚対策と在来魚復元」

農村を含む平野部の水域において魚類の復元により自然再生を考えるシンポジウムを昨年に引き続き開催します。本シンポジウムでは、全国各地で自然再生に取り組む市民と農業関係者の活動を紹介し、それぞれの専門家15名が問題解決に直結する最先端技術を紹介し、さらに、これから取り組むべき課題について参加者とともに意見交換を行います。雁の飛び立ちと水田魚道見学会、展示コーナー、品井沼ひしご飯弁当、情報交換会（懇親会）など楽しい企画もあります。詳細は当会ホームページをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

- ・名称 水辺の自然再生をめざす市民活動—外来魚対策と在来魚復元
- ・主催 NPO法人 シナイモツゴ郷の会、ナマズのがっこう、(社)農村環境整備センター、全国ブラックバス防除市民ネットワーク
- ・日時 平成19年10月27日(土) 9:30~17:30  
雁の飛び立ちと水田魚道の見学会は10月28日
- ・会場 学校法人誠真学園 宮城誠真短期大学

### 人工産卵床の改良—観察駆除作業週1回に可能に

当会は伊豆沼で平成18年から導入を開始しているオオクチバスセンサー装着人工産卵床の正しい使用方法を指導するとともに卵と親魚をさらに効率的に駆除するための改良試験を行っています。



2段式人工産卵床  
センサー装着人工産卵床の下段に目合い0.2mmのネットを貼ったトレーを取り付けた。

今年度は宮城県伊豆沼内沼環境保全財団と共同で2段式人工産卵床による産卵実験を行っています。砂利などの表面に産み付けられた卵は3~4日でふ化し、ふ化した仔魚は捕食魚を避けるため間隙に潜り込む習性があります。間隙に潜



下段トレーで回収したふ化仔魚

り込んだ仔魚が底面に落下する性質を利用して、産卵床を2段にして、下段に目合いの小さなネットを敷くことにより、落下したふ化仔魚を全量回収することに成功しました。この装置により産着卵と共にふ化直後の稚魚を回収することが出来るようになったので、これまでの週2回観察を1回にすることが可能になりそうです。

### 品井沼ヒシ栽培試験ーやはり楽しい菱取り

旧品井沼の特産品ひしの復元を目指した栽培試験は今年で3年目を迎えました。深谷地区の水田10aではジュンサイハムシの食害を受けながらも何とか収穫期を迎えることが出来ました。今年は、ため池の水を利用した省エネ栽培に挑戦し、水深15cmの水田で十分な成長を得ることが出来ました。

9月15日には品井沼ヒシの収穫と試食会を開催し両方も好評でした。特に収穫会では、袖まくりした長靴姿

の一般参加の方々が談笑しながら時間一杯とり続けました。品井沼の菱取りが楽しいイベントとして復活するかも知れません。



菱取りを楽しむ参加者 9月15日栽培試験水田

## 朝日新聞社「明日への環境賞」受賞！！ 坂本 啓

「明日への環境賞」を我がシナイモツゴ郷の会が受賞しました！！これは、かけがえのない環境を守り、将来につなげる優れた活動を顕彰するもので、朝日新聞社の創刊120周年に当たる1999年に創設されたものです。数多くの応募団体の中から選ばれたことは非常に荣誉あることだと思います。

第8回目にあたる今回受賞したのは当会の他に、北海道でシマフクロウの保護活動をしている山本氏、公害のない街づくりに向けた多様な実践活動を行っている大阪市のあおぞら財団、そして希少種のマツの保全に携わっている屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊の計4団体です。4月24日に朝日新聞東京本社で行われた贈呈式・祝賀会には多くの人々が参加し、郷の会からは安住理事長を筆頭に総勢8名が出席しました。

当日はシンガー・ソングライターのみなみらんぼう氏による記念講演が行われ、その後贈呈式となりました。贈呈式では、安住理事長と高橋副理事長が正賞の賞杯と盾、そして副賞の100万円を受け取りました。賞杯「水の惑星」は富山ガラス造形研究所の渋谷良治氏によって作成され、その名の通りマリブルのガラスで出来ています。手に持つとずっしりと重く、受賞した喜びとこれから社会で果たすべき責任の重さを感じられました。副賞の100万円も財源が乏しいNPO団体にとって、どれほど心強いかな……。これは、後日行われた臨時総会の結果、調査器具や印刷機器などの購入に充てる予定になっています。

さて、厳かに行われた贈呈式の後は、いよいよ待ちに待った祝賀会です。いや～、大きな賞を受賞した後のビールはうまい！（といっても私はただ座って見てただけですが。。。）料理もうまい！！（牛肉サイコ

～でした。。。）そして、なんとと言っても一番の思い出はタレントの宮崎美子さんに会ったことでしょう。宮崎さんは以前NHKで放送されていた「生きもの地球紀行」の取材で今回の受賞団体である山本氏とヤクタネゴヨウ調査隊を訪れたことがあるそうで、今回はそのお祝いに駆けつけたということでした。郷の会のPRをしようと根元キリコミ隊長を先頭にご挨拶に伺いました。当会の活動内容を説明するととても興味深そうに聞いて下さり、「楽しそうな団体ですね。是非シナイモツゴを実際にみてみたい。」とのことでした。忘れずに記念撮影をパシャリ。ちゃっかり一番いい位置で撮ってもらいました。そのうち鹿島台にも来るかもしれません。楽しみですね～。

今回の受賞を契機に、私たちの活動は今後いっそう全国から注目されることになると思います。その期待



授賞式で賞状を受け取る安住理事長

に応えるためにも、これまでよりも一段階上の活動を目指して頑張らなければならないと感じています。今年もイベントが目白押しです。会員間そして当会に賛同してくださる方々と連携を密にとり、一步一步丁寧にそして着実に進めて行ければと思っています。

# 鶴岡淡水魚夢童の会情報交換会に参加して

鈴木康文

シナイモツゴ郷の会には毎年春に移動研修会があります。今年で4年目になりますが、毎年多くの会員の方々および家族、友人、知人の参加があり、年を追って充実した研修会となっています。

今年は山形県庄内地方の淡水魚の保全にとって不可欠な標本や写真など貴重な資料を収集している鶴岡淡水魚夢童の会を訪問し情報交換しました。平成19年4月29日、安住理事長をはじめとする22名の参加者が鹿島台公民館を朝7時30分に出発し、快晴に恵まれた庄内路を駆けて、事務局事務所である岡部夏雄代表の自宅へお邪魔しました。岡部氏は鉄工所を営む傍ら、長い間庄内地区の淡水魚の保全、保護活動を行い自然環境の重要性を訴え続けておられます。

事務所にはたくさんの標本が陳列され、ウケクチウグイの水槽もあって目が引きつけられます。さらにサクラマスの剥製などが並べられており、目を見張るものばかりです。岡部氏は、長年にわたって集められたホルマリン標本を前にして、山形県の淡水魚の生息状況や調査方法などについて、1時間半にわたって講演されました。

終了後、シナイモツゴ郷の会の参加者から出された沢山の質問に対し、ていねいに答えていただき、大変有意義な交換会になりました。そして、氏の著作「庄内淡水魚探訪記」と「消える魚の生活環境」の紹介があり、多くの会員が購入されたようです。特に両書は掲載された写真が美しく、生息地や魚の顔の写真に圧倒されます。

午後からは岡部氏の案内で市内大山地区のため池を見学しました。このため池はかつてシナイモツゴ、トウヨシノボリ、メダカ、などが生息していたところ

ですが、現在はブラックバスが繁殖し絶滅してしまったそうです。

見学会終了後、岡部氏と夢童の会会員の方々に再会を期してお別れしました。最後に、岡部氏からも見学を強く勧めていただいたクラゲの水族館として有名な加茂水族館を訪れ、いろいろな種類のクラゲを見ることが出来ました。岡部氏には10月27日古川で大会が開催するシンポジウムで山形の淡水魚についてご講演いただくことになっています。

今回の移動研修会では大崎市教育委員会や鹿島台公民館のご配慮をいただき、大変ありがとうございました。また、長距離バスを運転して下さった栗田さんに感謝申し上げます。また、来年の研修会が楽しみです。



標本を前にして講演する岡部夏雄氏

## 自然派人間

安部 寛

私の趣味は山歩きに源泉かけ流し温泉めぐりです。

山歩きは、宮城県の山は蔵王連峰を除きほとんどの山を歩いたつもりです。一人歩きなので決して無理はしないのですが、残雪の山歩きは要注意、一度胸まで落ちて命拾ったことがあります。山は、途中辛いですが頂上に着いたときの征服感がいいです。最近運動不足なので鬼首の山を歩いて温泉にでも入りたいです。

温泉も、蔵王麓の温泉を除いてほとんど入ったつもりです。やはり鳴子温泉郷がいいですね。この秋には、一生に一度は入ってみたい温泉に行く予定です。

私もこの会に入って色々な活動に参加してきましたが、自然の中で新しい発見があると感動します。これからも、鹿島台の自然を護る活動をしていきます。

## 飼育ればーと

# 子育ては楽しい シナイモツゴ里親日記

石井洋子

我が家では昨年、里子のシナイモツゴが産卵し、稚魚を育てることができました。これはとても幸運なことだと思うので飼い方の一つの例として飼育日誌を紹介いたします。

### ■ こうして飼いました

平成17年11月の鹿島台町民文化祭で委嘱状を頂き、ペットボトルに入れられたシナイモツゴが、うちにやってきました。Mサイズの水槽（横35cm、容量17リットル、底は黒）に5尾、ポンプ式濾過器を使用しました。

● 平成18年4月中旬 一番大きい「一郎」のひれが先黒くなる。

● 5月6日 水温17℃ 3番目に大きい「三子」の腹がふくらんでいるのに気づく。あわててプラスチック植木鉢（3号鉢約9cm、うす茶）を投入。

● 5月10日 黒化した♂「一郎」、鉢をつついている。

● 5月11日 鉢の下で♀「三子」と一郎、ぐるぐる回る。産卵を誘う行動かと思われる。

● 5月12日 朝、鉢の下面外側に卵あり。約4cm<sup>2</sup>の面積に100個くらいか。



發育して頭に眼が出来た卵、衝撃に対して強くなるので輸送に適している

一郎、卵をつつく行動。

● 5月18日 発眼（卵が發育して頭部に眼ができる）

● 5月20日 水温20℃。鉢を別水槽（エアポ

ンプのみ、濾過器なし）へ移す。

● 5月24日 眼動く。

● 5月25日 水温15℃。ふ化確認。10尾ほど、底に横たわっている。

田んぼの水をお椀一杯入れる。ミジンコいっぱい。

● 5月26日 泳ぐ稚魚確認。体長5mmほど。あとは底に沈んででんぐり返しをしている。田んぼの水を毎日足す。

● 5月29日 最後の卵、孵る。残り2個はかびのようなものがはえた。

● 6月1日 水温18℃。体長7mm。沈んだまま、泳げないものがある。

● 6月上～中旬 気温低く日照短いのでミジンコ発生少ないため、粉末状の配合飼料を与える。耳かき一杯。

● 6月中旬 特別大きいものは体長1cm、4尾。その他は7～8mmで20尾くらい。

● 7月1日 水温21℃。大きい4尾は2cmほどに。他は0.8～1cmの大きさのものが5尾残る。

以降、田んぼの水（ミジンコ）と粉末配合飼料を与え、秋までに9尾が育った。翌春（H19）には6尾に減ったが、そのうちの4尾は他の里親へと元気にもらわれていった。

### ■ 誰だ！

さてこの間、一郎と三子は何をしていたのでしょうか。何と彼らは、産卵から約2週間後の5月29日に、2回目の産卵をします。約1cm<sup>2</sup>に約30個の卵が産み付けられ、3日後の6月1日に早くも発眼しました。6月4日には眼が動き、鉢を移そうとしていた矢先に、卵が消失してしまったのです。

事件はまだ続きます。6月23日、三子は3回目の産卵をしましたが、その朝、既に卵はへこんでいて、何者かにつつかれたようでした。7月2日、産卵あるも、朝の時点で残りは3個、午後にはそれもなくなっており、今度こそは、という意気込みの裏をかくように、犯行は行われるのでした。7月8日、5回目の産卵、数個のみ残っており、即、鉢を移動、数日後、3個発眼するも、白

い線虫のような生物が侵入。1卵だけ孵ったが、白いかびのようなものが生えて生き残らず。結局、1勝4敗でこの年のシーズンは終わりました。

■ 解けない謎

〈その1〉最初に産まれた卵から孵った大部分はふ化しても泳げず、底に沈んだままだった。

〈その2〉稚魚には早くから大きくなる個体がいる。恐らくみ。

〈その3〉なぜ卵は消えたのか。卵がへこんでいることから、何者かがつついたと思われる。ただ産卵は朝早く、私の起床は遅いため、産卵自体を観察しておらず、つついている現場も押さえていない。一郎が卵をつついて（世話して？）いるところ以外は。

〈その4〉不気味な2番手「二郎」の存在。体が黒化しないため、性別が私にはわからなかった大きな個体、二郎。ある時は一郎と鉢の下でデートをして三子を追い払い、ある時は三子も交えて乱ゲブーを繰り広げ、また、ある時は一郎に追われて温度計の陰で固まっている。可愛そうな二郎。恐らく二郎はみで、一郎と三子の間を邪魔していたものと思うが、真相は闇の中である。

〈その5〉親の世話の重要性。5回目の産卵では2種類の謎の生物が発生し、ふ化しない卵がでた。親がつついて世話することで、卵は守られているのだと思われた。

〈その6〉世間は厳しいのか？100分の9という確率。

■ 里親の醍醐味

今年は私の水槽で産卵がなかったので、一般家庭での飼育で卵から育てるという経験は、簡単にできることではなさそうです。でも運よく卵を産んでくれたら、毎日、一喜一憂しながら、流されがちな日々の暮らしの中に、発見と夢を

## 里親紹介コーナー

### 新しい里親 仙台市松陵小と鶴谷小



卵を収容する鶴が谷小の生徒



搬入した卵がふ化・・・松陵小学校

見つけることができるでしょう。春になって、子が黒く精悍な顔付きになり、鉢の下に陣取るのを見ると、「お父さん頑張って」と声を掛けてしまいます。眼が動いている卵や卵から体を震

#### 平成19年度 年会費納入のお願い

本会は会員の年会費で運営しています。

郵便振込みをお願いします。

振込用紙は公民館にあります。

正会員 2,000円

賛助会員 個人 1,000円

団体・企業 1口 10,000円

わせて泳ぎ出す稚魚には生命のいとおいしさを感じます。消化管が透けて見える小さな体の美しいこと。

産卵がなかったとしても、シナイモツゴたちはいろいろ楽しませてくれます。鉢の下の争奪戦やら大小のいさかい。餌には見向きもせず、黙々と壁の藻ばかり食べているマイペースなやつが存在。こんなことを楽しむためには、何と言っても毎日見ることが大事です。水槽を覗きましょう。うちで産まれた子供たちは人が寄ると近づいてくるほどなつきました。おいおいきみらの野生はどうした、と言いつつ、我が家から巣立っていく日に想いを馳せる私たち里親一家でした。

#### 水辺の自然再生シンポジウム

—外来魚対策と在来魚の復元

2007年10月27日(土) 9:30~17:30

大崎市古川 誠真短期大学

入場料 無料

次の2つの作文は小野小学校4年生の皆さんの里親奮戦記です。

## 【観察飼育報告】シナイモツゴを育ててみて

4年 名前【高橋 庄汰】

ぼくたち四年生は、シナイモツゴを飼育しています。5月31日(木)に里の会の人といっしょに池そうじをしました。池の中の魚をあみでつかまえて水そうにうつしました。ドロが多く水がにごり魚をつかまえるのがたいへんでした。水をぬくのに、バケツリレーをしました。ドロをとるのも苦労しました。シナイモツゴは全倍で256匹いました。ぼくは、おどろきました。

6月21日(木)には、池の中に産卵ポットを里の会の人をもってきてくれました。産卵ポットには

卵がたくさんついていました。卵を観察したら黒い目がピクピクうごいていました。ぼくは、びっくりしました。卵が小さかったので、ぼくは、おどろきました。みんなで卵を見た後産卵ポットを池の中に入れました。ぼくは、シナイモツゴがちゃんと育てられるといいなと、思いました。ヒシも入れました。ヒシは、よごれた水をきれいにしてくれるそうです。ぼくは、ヒシがふえるといいなと思いました。でもヒシは大きくなりませんでした。



シナイモツゴ卵収容準備中の小野小の子供たち

そのあとみんなで当番を決めてえさをやりました。夏休み中にも池の観察をしました。シナイモツゴが池のはじっこに集まりやすいことをしりました。夏休みが終わってから、先生とみんなで、池のシナイモツゴを5匹つかまえてきて、教室で観察を

## 【シナイモツゴ観察の記録】

名前【鶴田 慧理】

きくなってきました。生まれたばかりなので、体の中がみえました。おなかのあたりは、少しオレンジ色でした。水そうのシナイモツゴは、大きいものは、すぐにみつけられますが、小さいものは



里親小学校の観察交流会で説明するインストラクター(9月小野小)

見つけにくかったです。暑いときには、水をたします。水温が上がって水草がきいろになるからです。池のまえて、池の様子の観察もしました。また、私達は、里の会の方からいただいたしりょうや、インターネット本で、シナイモツゴについていろいろと調べてきました。そして、調べたことを新聞や絵本などで表現していきたいです。シナイモツゴの里親として、これからも、ちゃんと観察や世話を続け、少しでもシナイモツゴがふえるようがんばっていきたいです

## いきいき！夢キラリ 全国放送

東北放送 TV 10月22日(月)

午前10:50~11:20

シナイモツゴ郷の会の活動を紹介する30分。宮城県以外では放送時間が異なりますので番組紹介HPなどをご確認下さい。

始めました。小さいシナイモツゴから、大きいシナイモツゴまでいました。大きいシナイモツゴは、さらに大きく、小さいシナイモツゴも少しずつ大

## シナイモツゴBCC通信から (No100 : 8月31日配信)

みなさま

空の色や太陽の角度は完全に秋です。

公民館では今年も三浦理事自慢のスズムシが澄んだ音色を聞かせてれています。

BCC通信はおかげさまで100号になりました。

ご支援ありがとうございます。

今後も会員の情報共有を目指して継続配信しますのでよろしくお祈りします。

### イベント情報

#### ①臨時打ち合わせ会

**9月1日(土) 18:00 鹿島台公民館**

- ・秋のシンポジウムに向けて
- ・生き物調査
- ・ヒシの試食会
- ・その他

#### ②生き物調査に参加しませんか

鹿島台山谷地区で郷の会主催の生き物調査を開催します。

**9月2日(日) 9:30 山谷集会所**

地区内の川とため池で調査します。どんな希少魚が出現するか楽しみです。

#### ③品井沼ヒシ第1回収穫&味わう会

深谷地区で栽培中のヒシは度重なるアクシデントにも負けず順調に生育して開花、結実期を迎えています。

**9月16日9時30分 公民館集合**

午前中 現地での試験水田 見学と収穫作業

昼 学童農園 試食会

午後 学童農園

報告会 i) ヒシ栽培の課題と今後の取り組み

ii) シナイモツゴ郷の米認証制度について

#### ④里親小学校指導観察会

今年5カ所に増えた里親小学校がシナイモツゴの繁殖に取り組んでいます。

東松島市小野小学校で指導観察会を開催します。

**9月6日(木) 9:30 公民館集合**

平日開催となりますが、時間がとれる方は是非ご参加下さい。

#### ⑤鹿島台第2小学校シナイモツゴ勉強会(仮称)

2小が環境教育の一環としてシナイモツゴの勉強会を開催します。

郷の会は里親インストラクターなど講師を派遣します。

**9月7日(金) 9:00 鹿島台学童農園**

### 成果情報

#### ①定例会・理事会

8月18日(土)に開催

シンポジウム、シナイ通信11号の執筆分担などを協議しました。

#### ②伊豆沼・内沼自然再生事業準備委員会へ参加

8月25日(土) 伊豆沼サンクチュアリセンターで開催  
安住理事長が出席しました。

#### 団体(企業) 会員募集

だれででもできる自然再生技術開発と体制づくりへ参加しませんか?

- 特典: 最新情報の提供、共同研究・調査への参加
- 資格: 賛助会員もしくは正会員
- 年会費・1回 10,000円

#### シナイモツゴ BCC 通信

会員の情報共有を図るため、毎月2~3回メール配信しています。配信を希望される方は事務局へメールでお知らせください。BCC通信ではシナイ通信をカラーで見ることができます。

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。